

# 交際相手への暴力加害に及ぼす暴力許容度の影響

—情報通信技術を用いた交際相手への暴力—

○竹澤みどり (富山大学)・松井めぐみ (岡山大学)

キーワード: 交際相手からの暴力 (IPV), 加害, 情報通信技術 (ICT), 許容度

## 目的

内閣府 (2015) の調査によると, 交際経験を有する人のうち, 当時の交際相手から“身体的暴力”“心理的暴力”“経済的圧迫”“性的強要”のいずれかの被害を受けたことがある人は 14.8% (女性: 19.1%, 男性: 10.6%) であった。交際相手からの暴力は配偶者間暴力の予備群であり, 対策の重要性が指摘されている (上野, 2014)。暴力に対する許容は暴力行為を促進する要因の一つと考えられており (田中・水野・今野・山田・杉浦・菊池, 2005; 深澤・西田・浦, 2003), 被害者から見て暴力許容度が高いパートナーの場合に暴力が行われやすいことが示されている (深澤他, 2003)。一方で, 情報通信技術 (Information Communication Technology: ICT) の浸透により, ICT を用いた交際相手からの暴力 (Intimate Partner Violence: IPV) が増えており, ICT を用いない暴力よりも容易に行われやすいことが指摘されている (Melander, 2010)。本研究では ICT を用いた IPV (以下, I-IPV) においても, 行為に対する許容度が加害行為を高めるかを検討することを目的とする。

## 方法

**調査対象者と手続** 現在恋人がいる 15 歳から 29 歳の結婚していない男女を対象にインターネット調査を実施し, 824 名から回答が得られた。そのうち, 回答の信頼性をチェックする質問項目において適切な回答にチェックしなかった 221 名は分析から除外した。また, 本研究では異性愛における IPV を検討するため, 恋人の性別が異性である 501 名 (男性 142 名・女性 359 名) を分析対象とした。

**調査内容** 自身と恋人の性別, 年齢に加え, 以下の尺度について回答を求めた。**I-IPV 加害**: 竹澤・松井 (2014) の I-IPV 被害尺度の各項目を回答者が加害行為者となるように文章を修正して用いた。5 件法 (「一度もない」～「10 回以上」) で回答を求めた。**I-IPV 許容度**: 各 I-IPV 尺度項目に対して, 恋人であればこのような行為をしてもよいと思う程度を, 5 件法 (「まったく思わない」～「強く思う」) で回答を求めた。

**倫理的配慮** 回答は統計的に処理され個人が特定されることはないこと, 研究目的以外に利用することはないこと, 調査への協力は自由意志に基づくもので回答しなくても不利益をこうむることがないことをトップページに記載した。

**調査時期** 2014 年 1 月 10 日から 15 日であった。

## 結果

**加害尺度・許容度尺度** I-IPV 加害尺度の因子

分析結果 (竹澤・松井, 2015) に基づいて, 「嫌がらせ」(26 項目), 「侵襲的行為」(12 項目), 「監視」(7 項目) の 3 つの下位尺度ごとに得点化した。I-IPV 許容度についても, 加害尺度の因子分析結果を基に 3 つの下位尺度ごとに得点化した。次に, 各変数間の相関係数を算出した (Table1)。加害, 許容度の各行為における性差を分散分析を用いて検討した結果, 全てにおいて有意な性差は見られなかった。

**許容度の影響** 交際相手からの暴力に対する許容度が加害行為に及ぼす影響を検討するために, 各加害行為を従属変数とした階層的重回帰分析を行った (Table2)。性別や交際期間が加害行為に影響を与える可能性も考えられたため, 第一 step では統制変数として性別, 交際期間のみを投入した。次に, 第二 step では各行為に対する許容度を投入した。分析の結果, いずれの行為においても, 第二ステップにおける決定係数の増分が有意であり, 許容度は加害行為を高める効果を示していた。なお, VIF<1.03 であり, 多重共線性の影響は認められなかった。

## 考察

ICT を用いた暴力においても, それらに対する許容度が高ければ加害行為が行われやすいことが明らかとなった。ICT を用いた暴力は暴力とは認識されにくい可能性もあり, それ許容度を高めることにつながることも考えられる。したがって, 予防のためには ICT が交際関係における暴力に用いられている現状を広く伝え, 行為に対する許容度に焦点を当てた予防教育も必要であると考えられた。

\* 本研究は日本学術振興会科研費 (課題番号 24730572) の助成を受けた。発表に関連し, 開示すべき利益相反関係にある企業などはない。

(TAKEZAWA Midori, MATSUI Megumi)

Table1 各尺度の基礎統計量及び相関係数

	M	SD	1	2	3	4	5	6	7
1 交際期間	26.02	27.13	—						
I-IPV加害									
2 嫌がらせ	27.33	7.90	-.05	—					
3 侵襲的行為	13.25	4.71	-.01	.75 ***	—				
4 監視	9.72	4.98	-.02	.38 ***	.51 ***	—			
I-IPV許容度									
5 嫌がらせ	29.26	10.19	-.05	.76 ***	.55 ***	.27 ***	—		
6 侵襲的行為	17.35	7.72	.01	.37 ***	.51 ***	.31 ***	.55 ***	—	
7 監視	14.55	6.56	-.04	.19 ***	.25 ***	.52 ***	.29 ***	.55 ***	—

\*\*\*p<.001

Table2 階層的重回帰分析結果

	加害経験					
	嫌がらせ		侵襲的行為		監視	
	step1	step2	step1	step2	step1	step2
性別 (男性=1, 女性=0)	.00	-.04	-.04	.00	-.05	-.02
交際期間	-.05	-.01	-.01	-.01	-.03	.00
各許容度		.76 ***		.51 ***		.52 ***
R <sup>2</sup>	.00	.58 ***	.00	.26 ***	.00	.26 ***
ΔR <sup>2</sup>		.58 ***		.26 ***		.27 ***

\*\*\*p<.001